みんなの広場

毎日新聞　令和２年（2020年）8月31日(月)

距離をとっても心は寄せたい

大学生　豊島　恵22（奈良県三郷町）

新型コロナウイルスの感染拡大によって、私たちの生活は一変した。外出自粛にオンライン授業、在宅ワーク……。にぎわっていた繁華街も人通りがまばらになった。その一方で、食料品や日用雑貨などいわゆる「巣ごもり需要」が高まり、私がアルバイトしていたスーパーも多忙を極めた。

お客様が増えたことで、いつもの作業に時間がかかるうえ、店内の除菌など業務は多岐にわたった。忙しさに疲れ、感染への恐怖もあったが、本当につらかったのは、それらのことではない。

消毒用アルコールのボトルが一つでも空になれば、それをレジ台にたたきつけて大声でどなる男性。かごに入れた商品を触ってほしくないのか、私の手をしっしと払うような仕草をする女性。触らなければレジ作業はできないのに。

私は態度に出さず冷静に対応するよう努めたが、精神的にかなり疲弊した。互いに距離をとるソーシャルディスタンスが叫ばれる時だからこそ、「心」は寄せ合うようにすることを忘れないでいたい。

※　無断転載、複製を禁止します。